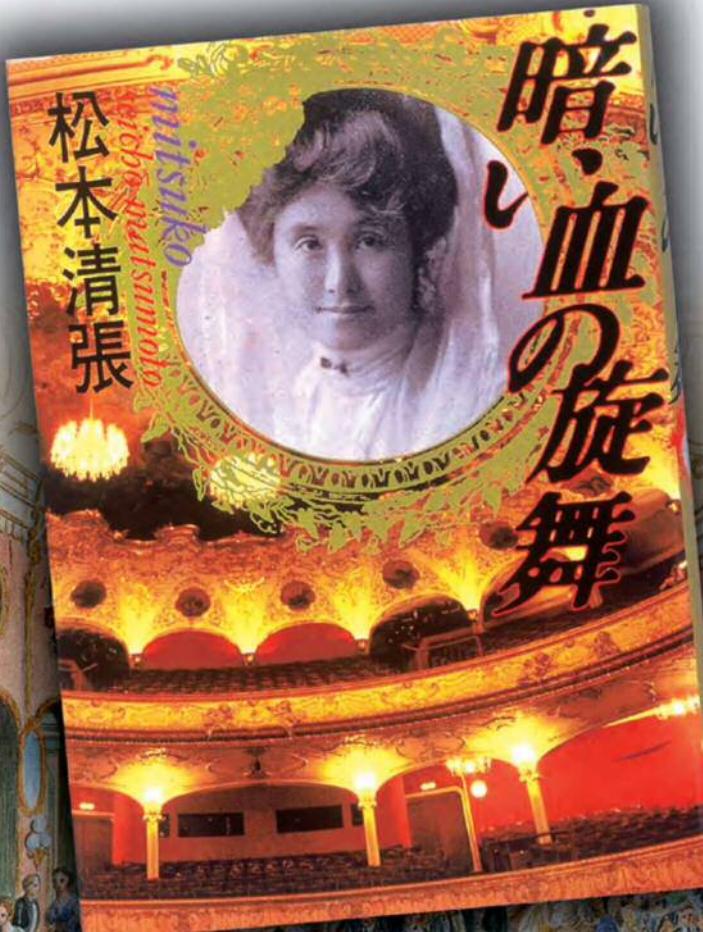


# 松本清張記念館

◆館報◆

2014.8  
第46号

個人を伝するは、  
その時代なり歴史なりの  
側面を叙することである。



『暗い血の旋舞』  
昭和62(1987)年4月20日  
日本放送出版協会  
(書き下ろし)

現在入手できる本

『松本清張全集』64巻 1996年1月 文藝春秋  
『暗い血の旋舞』文春文庫(電子書籍版) 文藝春秋

写真提供:オーストリア政府観光局/Trumler



## 目次

- 松本清張研究会 第30回記念研究発表会 2
- 特別企画展「伯爵夫人ミツコ 激動のヨーロッパに咲いた華——松本清張「暗い血の旋舞」」 5
- 展示品紹介 6
- 点描 作品の舞台を訪ねて 6
- 友の会活動報告 6
- トピックス 8

ミツコはヨーロッパの激動の時代に直面する。そのひとつに一九一四年六月のサラエボ事件がある。皇位繼承者フエルディナントと共に銃弾に倒れた妃ゾフィーが宮廷で冷遇されていた原因は、彼女の出身地がボヘミアであったゆえだと杉田は思い至る。ボヘミアのもつ歴史的背景とは何であろうか。血縁で結束を高めてきたハプスブルク家の落日の遠因にも「暗い血」があつたことに気づき、杉田は小説の構想を練りはじめる。

(専門学芸員 小野芳美)

## 作品紹介

文筆家・杉田省吉は、青山光子(ミツコ・クーデンホーフ・カラーウィーン)を訪れる。青山光子は明治時代「正式に西洋の貴族と国際結婚をした最初の日本人女性」として知られる。オーストリア・ハンガリーに渡り、夫亡き後も伯爵家を守り、生涯日本に戻ることはなかった。息子リヒャルトは汎ヨーロッパ主義を提唱したことから「欧洲連合の父」と称される。ミツコ論の多くはリヒャルトの著述に拠るが、杉田はより第三者的にミツコの実像とクリーデンホーフ家の眞実に迫ろうと取材を重ね、ミツコの過ごした一九世紀末から二〇世紀初頭の、華麗なウィーンとボヘミアの曠野を物語の背景にしようと考える。

アーヴィングはヨーロッパの激動の時代に直面する。そのひとつに一九一四年六月のサラエボ事件がある。皇位繼承者フエルディナントと共に銃弾に倒れた妃ゾフィーが宮廷で冷遇されていた原因は、彼女の出身地がボヘミアであったゆえだと杉田は思い至る。ボヘミアのもつ歴史的背景とは何であろうか。血縁で結束を高めてきたハプスブルク家の落日の遠因にも「暗い血」があつたことに気づき、杉田は小説の構想を練りはじめる。

青山光子は明治時代「正式に西洋の貴族と国際結婚をした最初の日本人女性」として知られる。オーストリア・ハンガリーに渡り、夫亡き後も伯爵家を守り、生涯日本に戻ることはなかった。息子リヒャルトは汎ヨーロッパ主義を提唱したことから「欧洲連合の父」と称される。ミツコ論の多くはリヒャルトの著述に拠るが、杉田はより第三者的にミツコの実像とクリーデンホーフ家の眞実に迫ろうと取材を重ね、ミツコの過ごした一九世紀末から二〇世紀初頭の、華麗なウィーンとボヘミアの曠野を物語の背景にしようと考える。

アーヴィングはヨーロッパの激動の時代に直面する。そのひとつに一九一四年六月のサラエボ事件がある。皇位繼承者フエルディナントと共に銃弾に倒れた妃ゾフィーが宮廷で冷遇されていた原因は、彼女の出身地がボヘミアであったゆえだと杉田は思い至る。ボヘミアのもつ歴史的背景とは何であろうか。血縁で結束を高めてきたハプスブルク家の落日の遠因にも「暗い血」があつたことに気づき、杉田は小説の構想を練りはじめる。

文筆家・杉田省吉は、青山光子(ミツコ・クーデンホーフ・カラーウィーン)を訪れる。青山光子は明治時代「正式に

# 「松本清張の昭和史」半藤 一利<sup>(作家)</sup>

●日時 平成26年6月7日(土)午後2時

●場所 東京大学

ここでは、講演の一部を抄録します。講演の全内容は平成27年3月末発行の研究誌『松本清張研究』に掲載します。半藤氏の石原莞爾論や『昭和史発掘』の読み方、二・二六事件に対する海軍の動きなど、面白く興味深い話がまだまだたくさんあります。乞うご期待。



## 編集者が日曜日に休むのはけしからん

本題に入る前にばか話を一席。清張さんは浜田山に住んでおられました。私は永福町に住んでいたんです。ほんと困ったことに、清張さんは日曜日になると、家に電話をかけてきますで、チリンチリンと朝に鳴るんですね。九時半ごろ、家内が出て「もしもし」といって、「松本だが」と言う。うちの家内が「どちらの松本ですか?」と訊くと、「浜田山の松本だが」とおっしゃる。「はあ、清張さん」とびっくりする家内に、「半藤くん、いるかな?」ということで私が出ると、「ちょっと急用があるから来てくれ」というんです。しばらく、家内は「朝の電話、私、出ない」といって頑張つましたが、しようがないので、下駄はいて自転車に乗つて、清張さんの家に行きました。そして、門の外に自転車を立てかけて鍵をしめて、中に入る。別に何も用はないんですよ。(笑)「編集者が日曜日に休んでいるのはけしからん」と言うんですよ。ひどい人ですね。「おれは働いてるんだ。それなのに編集者どもは日曜日にのうのうと休んでいる。これは良くないことだ」と、「だから、今日おまえはおれと話をしろ」と、

まず石原莞爾は、反乱軍将校の方からみと、どういうふうに見られたか。磯部浅一の『行動記』という膨大な手記が残つております。それで反乱軍側の動きとか気持ちとか精神というものをだいたい察することがで

立たけて鍵をしめて、中に入る。別に何も用はないんですよ。(笑)「編集者が日曜日に休んでいるのはけしからん」と言うんですよ。ひどい人ですね。「おれは働いてるんだ。それなのに編集者どもは日曜日にのうのうと休んでいる。これは良くないことだ」と、

石原は反乱軍に対して「討伐せよ、こういうことは許さん」と、最初から最後までびくともしなかつたという見方もできると思いますが、カッコいい人なんですね。石原莞爾のところだけを拾つて見ると、事件に際して非常にカッコいい人なんですね。石原は反乱軍に対する見方をやつているが、本心はどつちか分らんぞというところも見られるのです。どつちの見方もできる。そこで、この石原莞爾をめぐっては清張さんと私は真っ向からぶつかり合つたのです。清張さんがあんまり石原莞爾を褒めたたえると、そんなものじゃないんじゃないですかと、つい清張さんに文句を言いたくなるんですね。清張さん、けつこう褒めているんですよ。

## 反乱軍将校からみた石原莞爾

二・二六事件における石原莞爾は非常にむずかしい方です。むずかしい人ですが、石原莞爾のところだけを拾つて見ると、事件に際して非常にカッコいい人なんですね。石原は反乱軍に対する見方をやつしているが、本心はどつちか分らんぞというところも見られるのです。どつちの見方もできる。そこで、この石原莞爾をめぐっては清張さんと私は真っ向からぶつかり合つたのです。清張さんがあんまり石原莞爾を褒めたたえると、そんなものじゃないんじゃないですかと、つい清張さんに文句を言いたくなるんですね。清張さん、けつこう褒めているんですよ。

ところが、不思議なことは、決行当日になつたときに、磯部は『行動記』の中で『余の作成した惨殺すべき軍人』として、林銃十郎、片倉衷、武藤章という名前と並んで、石原莞爾という名前が挙つてあるんですね。ですから、スタートのときから、石原莞爾は反乱軍の方から見ると、鶴みたいにどつちの側かよく分かんない人だった、と見れば見れるんです。ただ、磯部がどこまで反乱軍将校全員の意思を代表しているかは分りません。惨殺すべき軍人として挙げている名前は『余の』で、『私がこう考えるというわけですか』から。でも一応、林銃十郎にしろ、片倉衷にしろ、武藤章にしろ、統制派の錚々たる面々ですから、皇道派の方からみれば、まさに惨殺すべき人間であつたかと思いまます。その中に、石原莞爾の名前がひょこんと出てくるんですね。『我々の心が分つてい

まるわけです。清張さんも『二・二六事件』の中にそれを十分にお使いになつていて。

『第二回被告人訊問調書(磯部浅一)』をみるとき、『私共ノ気持ガ判ツテ下サル方々』として名前がずらつと載つてゐるんです。つまり、反乱軍将校側がどうして立たなきや

といけなかつたのかという気持ちをよく分かってくれる方々として、ずらつと名前が挙がつてます。牟田口廉也、鈴木貞一、小畠敏四郎、岡村寧次、山下奉文、本庄繁、荒木貞夫、真崎甚三郎、川島義之、今井清という

面々が並んでおりまして、その中に石原莞爾という名前もあるわけでございます。と

いうことは、決行十日くらい前には、石原はこつち組と反乱軍の人たちは見ていたことが、若干分るんです。

ところが、不思議なことは、決行当日になつたときに、磯部は『行動記』の中で『余の作成した惨殺すべき軍人』として、林銃十郎、片倉衷、武藤章という名前と並んで、石原莞爾という名前が挙つてあるんですね。ですから、スタートのときから、石原莞爾は反乱軍の方から見ると、鶴みたいにどつちの側かよく分かんない人だった、と見れば見れるんです。ただ、磯部がどこまで反乱軍将校全員の意思を代表しているかは分りません。惨殺すべき軍人として挙げている名前は『余の』で、『私がこう考えるというわけですか』から。でも一応、林銃十郎にしろ、片倉衷にしろ、武藤章にしろ、統制派の錚々たる面々ですから、皇道派の方からみれば、まさに惨殺すべき人間であつたかと思いまます。その中に、石原莞爾の名前がひょこんと出てくるんですね。『我々の心が分つてい

にも出てくる。たった十日の差なんですよ。ですから、これ、まさにややこしいんです。従つて、清張さんもこの両方を見ているから、お書きになりながら「さてさて」と思つたにちがいないと思うのですが、それはこれからの話になります。

## 清張さんの石原莞爾論

さらに、もう一つ石原莞爾の出番は、午前十時過ぎです。磯部浅一という反乱軍の中 心人物が、たつた一人で戒厳司令部に乗り込んでもくるわけです。軍事参議官を追い出 した今のは、午前十時十分ごろの話だっ たので、ほとんど前後して、香椎戒厳司令部 司令官と最後の談判をするために磯部が乗 り込んできました。我々の今の思いを伝え たいから、香椎に会わせてくれと言つて、強 引に会いました。そして、磯部は滔々と言つ わけです。すると、そこに石原が来て、清張 さんはこう書くんです。〈突然、石原莞爾大 佐が入ってきた。石原は磯部の横に来て、 「君等は奉勅命令が下つたらどうするか」と 問うた〉。実際は、すでに石原自身が今朝、命 令受領者を集合させて命令を伝えていたるわ けです。〈これは磯部らの出方を見るための 打診だ。〉「ハア、いいですね」と、磯部は腹を 立てて突放す。勝手にしろということです。 ね。〈いいですねでは分らん、きくか、きかぬ かだ〉「其れは問題ではないではありません か」と、磯部はわざと答えにならぬ答えをし た。両方の話は噛み合わない。と清張さん は書いている。

そのときはそのまま分かれたんですが、 また十時四十分頃になつて、〈再び石原大佐 が入り来り、司令官に強硬なる意見具申し

たるも、きかれず、司令官は奉勅命令は実施 せぬ訳にはゆかぬ。お上を欺く事は出来ぬ と言ひ、断乎たる決心だ〉つまり、戒厳司 令官としては天皇の奉勅命令が出たんだか ら、命令を聞かないというわけにはいかず、 断固たる決心を固めているんだから、おま えが何を言つてもダメなんだと言つたわけ ですね。そして、〈『どうだ、君等は引いて呉 れぬか、この上は男と男の腹ではないか』と 言ふた〉。そこで、石原莞爾は涙をぽろぼろ 流しながら、磯部の手をとつて握手をしな がら「引いてくれないか」と言つたらし いんですね。

で、清張さんはこう書くんです。〈石原は 戒厳参謀中、奉勅命令の即時下達論者であ り、討伐も辞せない最強硬論者である〉。こ れが清張さんの石原莞爾論なんですね。〈石 原が杉山参謀次長の尻を叩き、決行幹部に 心情的に同調して、態度の煮え切らない香 植司令官を引張り、遂に香椎をして「決心変 更、討伐を断行せん」と杉山に言明させたの は、これまでみてきた通りである。したがつ て、石原が香椎に「強硬なる意見具申」をし たが、香椎がこれを承知しなかつた、という のは、事実の顛倒で、石原が磯部の手前、司 令官の「断乎たる決心」のせいにしてしまつ たのである。実力者が自己の意見を無能な 上長の言葉にスリかえるのは常套手段であ る。と、石原は実際に上手い芝居をうつたと 言つているですよね。〈討伐の強硬意見を持 ちながら、実は石原も撤退を最善の策とし た〉。と、清張さんは書いているんですね。

トカラ人・ペルシア人の来朝と文物の東漸  
——法隆寺烙印十字明日香石造物・胡印及び景教遺物からのアプローチ  
発表者 久米 雅雄 ○大阪芸術大学客員教授



## 研究発表

### 松本清張『火の路』とペルシア文化の飛鳥東漸

発表者

久米 雅雄

○大阪芸術大学客員教授

中国の印章の研究をやつてきて、日本の 古代史を見ますと、松本清張先生が四十年 前に指摘された『火の路』という小説のコ アの部分が、どう考えても当つているんで はないかという気がしてならないんです。 『火の路』の「火」はゾロアスター教の「火」 で、ペルシアのゾロアスター教が日本の飛 鳥まで入つているというのが、清張先生の 自説です。一番感心したのはそれが単なる 思い付きではないことです。実証がある。 資料も信頼性の確認をした上で組み立て て、石原も撤退を最善の策としているんです。驚いたのは、中国の陳垣とい う学者の『火祆教入中國考』や、日本では 東洋学者石田幹之助の『長安の春』などを 読まれたり、専門家の生の論文が『火の路』 にはいっぱい出していることです。本当にこ んなところまで勉強するのかというくら い、細かい掘りさげをしてそれを積み重ね て論を作つていてるんです。

西方のトカラ人とかペルシア人が日本に 来たということは、『日本書紀』や『続日本 紀』などの文献を調べると、白雉五(六五四 年)、齊明三(六五七)年、齊明六(六六〇)年、天 平八(七三〇)年など、ちゃんと出てきます。 次に物証です。まず正倉院の文物です。 「白瑠璃碗」、「漆胡瓶」はペルシアですね。 それから法隆寺の「龍首水瓶」は、胴部にペ ラガサスの彫り物があります。「四騎獅子狩 文錦」も法隆寺の所蔵で、ペルシア人が獅 子狩りをしている。また、大阪芸大の近く の安閑天皇陵とか奈良の新沢千塚とかに、

れである)から、討伐は必ずしも彼の望むところではなかつた。また、討伐を決行すれば、軍と国民とが分裂する結果になるので、石原の改革案遂行も困難となり、彼が育ててきた「満洲経営策」にも大きく影響する〉、〈そのようなことをいろいろ考えていた石原は、磯部に「引いてくれ」と頼んだのだろうが「握手をして落涙」したというのは、石

は面白いことだと思うんですよね。 その辺はどうでしよう? 皆さん、これ は面白いことだと思うんですよ。

ペルシアのガラス碗が入っている。正倉院とか法隆寺に入る前の段階、六世紀の古墳の中から出たのです。ペルシア人ととの交流はもつと早い時期かもしれない。

松本先生もふれられてますが、法隆寺の伎楽面ですね。七世紀、八世紀のもので、「醉胡王」と「醉胡從」を選びました。西域のペルシア人の顔を写したものだと言われています。

### 『火の路』と明日香の石造物等の調査

『石造男女像』は、噴水で水が飛び出すようになっています。松本先生は『酒船石』をハオマ酒醸造のための設備とされました。そして、こういう石造物は朝鮮半島には稀有で、ほとんど見られない。噴水という文化も朝鮮ではない。ペルシア独特の文化だと論じられたわけです。『猿石』も朝鮮半島ではちょっと見かけない。大きなものでは『亀石』がある。『二面石』は橘寺にあります。

橘寺の道路を隔てて広い公園があつて、礎石が並んでいました。お寺の礎石は円形のものが多いが、ここのはいくつか十字形をしています。仏教徒以外の寄進者（ペルシア系のキリスト教徒）の気持ちが現れているのかなあと思つたりしました。川原寺の遺跡です。薬師寺の北端に「十字廊」という、十字形の建物跡が出てきました。何で寺院の北の端に十字廊を造る必要があるのか。

印章研究の中で例えば、ヨトカンでベガサス、ホーランではヘラクレス像とかアテナ像とかエロス像とか、ギリシアの神々の判子や封泥がシルクロードから大量に出ているわけです。ソグドとトカラの間にバクトリアという国があります。ギリシア人が移住して作った国です。ペルシアの力が強くなつてバ

クトリアを包摶してしまって、ギリシア文化をペルシアが呑み込んでしまう。すると、ギリシアやローマのものもペルシアに融合されて、中国に入り、遣唐使経由で飛鳥まで入つてきてないか、と思うわけですね。

次の貨幣の図はペガサスで、裏側がアナ。次の『二面』はヤヌスという神様。僕は橘寺の『二面石』に、ペルシア経由でかなり加工されたローマ的な要素が入つているような気がしてならないんです。

『猿石』なども、山王権現の耳のところは、『角』ではなくてまさに「ウイング（翼）」ですね。ヘルメスというギリシアの神の足には、翼がくつ付いてくることが多い。この写真のヘルメスは横にウイングが付いている兜（かぶと）を、頭に被つていますね。旅の守護神ヘルメスの影響がないか、ギリシア・ローマ神话の影響がないかと考えています。

次はペルシアの貨幣です。表に国王の肖像、裏はゾロアスター教の拝火壇と祭司像です。王様の王冠に月と星が出てくる。傍に七曜文が描かれることもあります。

印章では、ササン朝・ペルシア時代のペガサス、次はヘルメス像です。こういうのを見ています。仏教徒以外の寄進者（ペルシア系のキリスト教徒）の気持ちが現れているのかなあと思つたりしました。川原寺の遺跡です。薬師寺の北端に「十字廊」という、十字形の建物跡が出てきました。何で寺院の北の端に十字廊を造る必要があるのか。

印章研究の中で例えば、ヨトカンでベガサス、ホーランではヘラクレス像とかアテナ像とかエロス像とか、ギリシアの神々の判子や封泥がシルクロードから大量に出ているわけです。ソグドとトカラの間にバクトリアという国があります。ギリシア人が移住して作った国です。ペルシアの力が強くなつてバ

できるけれど、唐の時代は「大秦景教中國流行碑」（七八一年）や墓誌などの遺物は出でてくるのに、なぜ判子はないのかという疑問です。本当はあるのではないかと思いながら、最後に辿りつくのが今回の『法隆寺烙印十文字』（香木に「字五（761年）の墨書）の研究です。

『法隆寺烙印十字』は江戸時代から注目（穂井田忠友・長谷川延年）されていましたが、刻印や烙印の字はよく分かりませんでした。

『火の路』のお仕事をいち早く評価された伊藤義教先生は、刻銘の末尾は「K」であるから「ボーフトイ」でなく「ボーフト

ラーク」と読んだ方がよく、その意味は「あなたが救われて（ましますよう）」という祈願文で、意訳すると「あなたの靈よ、安かれ」で、人名ではなく祈願文だとおっしゃっています。井本英一先生はペルシア語の部分を「ボーフトイ」と読み、「救世主」という意味の方言形であると位置付けられました。

ただ焼印の方は、東野治之先生ものべるよう、「ニーム・シール」（半面）では意味に発展がない。茨木市の隠れキリスト教の墓碑や京都の墓碑、景教遺物を見ると、十字はどこにあるか。信仰者の目で見ると、十字架は上方に仰ぎ見るもので、ふつう上にある。私は天地を逆転させて、十字を上にして、文字をソグド語で読めないかと思つたのです。

焼印の「ニーム・シール」は、アルファベットでは「N Y M S Y R」です。これを逆転させると、左側が「R Y S」になり、右側が「M Y N」。

『アラム語—日本語単語集』を調べると、「R Y S」は「頭（かしら）」とか「始まり」と出でくる。「レーシュ」です。もう一つの「M Y N」は「メーン」で、「水」、「國、国民」とあります。合わせて、「諸國民の頭（かしら）」とあります。厳密に探すと、セム語関係の辞典の中に「救い」という単語が出てきた。で、「諸國民の救い or 頭」、原音的には「救い」の方がいいのではないかと考えています。

ペルシア語の刻銘を井本英一先生は「救世主」と訳し、十字はネストリウス派かマニ教の十字、印文はイラン系のソグド文字で書かれていますから、ペルシア系であることははつきりしている。「諸國民の救い」という言葉に、十字架のキリストをイメージするのも間違つてはいないと思います。従つて法隆寺に、光明皇后追善供養のためにソグド人が香木を献納した、そういう結論になるわけです。

このようにアジア最古のソグド語のキリスト教印が飛鳥に伝来していることが分かつた。『火の路』にいうペルシア文化の飛鳥東漸は確実であるというのが私の結論です。

それにしましても、松本清張という方は巨人だなあと本当に感じます。四十年前の『火の路』の先見性も、よくここまで見通せたと思ったくなりました。一つ一つ追つかけていくと証拠があがつてくる、その立証性には、本当に脱帽も脱帽、脱ぐ帽子がない感じです。



### 法隆寺伝來香木烙印十字 ——唐代ペルシア系基督教印、 奈良の都に入る——

二〇一二年に「景教印研究」を発表しましたが、問題として残つたのは、景教（ネストリウス派キリスト教）の判子も宋・元のものは確認

4

## 松本清張記念館開館16周年記念特別企画展

# 伯爵夫人ミツコ 激動のヨーロッパに咲いた華 —松本清張「暗い血の旋舞」

「暗い血の旋舞」は清張が1987年に発表した作品です。ここで描かれるミツコ・クーデンホーフ=カレルギー（青山光子 1874～1941）は文明開化間もない東京で生まれ、オーストリア＝ハンガリーの外交官と結婚、渡欧しました。「最初に国際結婚をした日本人女性」として知られています。

第一次世界大戦の勃発、オーストリア＝ハンガリー帝国の

開催期間 平成26年8月1日(金)～11月3日(月・祝)

場 所 松本清張記念館地階 企画展示室

入場料 一般 500円 中高生 300円

小学生 200円

※常設展示観覧料に含む

崩壊、ナチス・ドイツの台頭——ミツコはヨーロッパの激動の時代に直面します。そして夫亡きあとも逞しく生き抜き、ふたたび日本の地を踏むことなく人生の幕を閉じます。

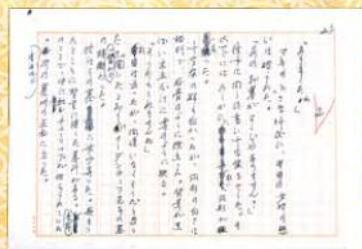
清張はミツコを通して、中欧近代史の真実に迫ろうとしました。本展では、ミツコ・クーデンホーフ=カレルギーの数奇な運命に光をあて、「暗い血の旋舞」の作品世界をご紹介します。

### I 清張が描いた“ミツコ”

「暗い血の旋舞」は、NHK特集「ミツコ ニつの世紀末」（出演：吉永小百合）との共同取材に基づくメディアミックス作品としても注目を集めました。



吉永小百合とウィーン・ホーフブルク宮殿で取材する清張  
写真提供：吉田節子



「暗い血の旋舞」直筆原稿



『暗い血の旋舞』  
1987年4月、日本放送出版協会

### III 光子からMITSUKOへ

ミツコは「暗い血の旋舞」のほか、評伝も多く、漫画、演劇など、様々ななかたちで愛されています。



清張が帯文を書いた木村毅著  
「クーデンホーフ光子伝」  
1971年6月、鹿島研究所出版会

### II ミツコを取り巻く世界

ミツコは夫ハインリッヒとの間に、のちに「EUの父」として知られる次男リヒャルトをはじめ、七人の子どもたちに恵まれました。



「ロングネックレスの伯爵夫人」  
ミヒヤエル・クーデンホーフ=カレルギー筆

### IV 国境を越える探求心 清張の取材旅行

清張はオーストリア・スイス・チェコスロバキア（当時）を丹念に取材し、考察を深めます。自ら手がけた写真やスケッチを通して、その取材紀行を追体験します。



ミツコが晩年を過ごした家を取材する清張  
写真提供：飯田隆夫



清張のスケッチ(ホーフブルク宮殿)

# 「点と線」直筆原稿のメモ

作業になる以前の、清張の職業といえば、石版印刷の職人からスタートして、朝日新聞社では広告デザインを手がけていたことは、皆さんが存知だろう。

かつての職業柄か、小説の相棒である『挿絵』には、格別思い入れがあるらしく、「西郷札」が『週刊朝日』に掲載されたときのことを『岩田専太郎氏の挿絵で、さすがに朝日で、大家の画家をたのんでくれるものだなど感激した。おかげで作品は引き立ち、予想以上に読まれたようである』<sup>(※1)</sup>と書いている。

記念館に「点と線」の資料が展示されている場所がある。年譜で、清張がベストセラー作家になつた頃を示すあたりにケース展示している。その中で、「点と線」の直筆原稿の一枚を裏返し、そこにうつすらと描かれた落書きのようなものを見せてているものがある。

この絵だけでは、何のことやらわからないが、連載された『旅』の第二回目を見ると、ほぼ同じ構図の挿絵が冒頭にある。つまり、清張が原稿の裏に、挿絵画家へのメッセージを描いていたのだ。



この絵は、香椎海岸で佐山とお時の遺体が発見される場面。メモは素描だが、清張が伝えたかったのは、いったい何だろう。

昭和八年、清張は博多の嶋井精華堂印刷所に半年間ほど修行のため住み込んだ。その頃か、香椎海岸から和白海岸のあたりによく行ったようだ<sup>(※2)</sup>。万葉集にも詠われた当時の面影残る風情だったという。その時の印象が、「点と線」に生かされている。

作家が挿絵にまで干渉する、というのは、挿絵画家にとつては、少し有難迷惑なことかもしれない。前号(『館報』45号)に掲載した山本幸正氏の研究発表によると、新進作家の清張が、大物挿絵画家の生沢朗に、度々細かく指示するも、けつこう無視されていることがわかり、興味深かつた。一方で、「砂の器」連載にあたり(作者、さし絵・朝倉撰氏)、編集者の三身一体となつて協力すれば成功に漕ぎつける自信はあります」との言葉もあり、これも注目される。

当館でも、これまで何度か挿画展を開催した。風間完、杉全直、濱野彰親氏いずれの画家も、清張との同行取材や、挿画を書くための材料の提供、指示などがあったことを、思い出とともに語っている。出来栄えを見限り、幸福なケースと思われる。初出でなくては味わえない作品の彩り——そこへ添えられたのは、読者への気遣いなのではないだろうか。

<sup>(※1)</sup>エッセイ「西郷札」のころ  
<sup>(※2)</sup>西島伊三雄氏・博多のデザイナー・故人  
の証言や、清張の「百作再見」による。

(専門学芸員 柳原 晓子)

## 「眩人」——玄昉という人①板櫃川



小倉市(旧)の板櫃尋常小学校にて時学んだことがある、この板櫃川のあたりはよく歩いたものである。板櫃川は川幅もせまくなつていて、とても両軍が川をはさんで対峙したような大きななものではなかつた。先生から広嗣合戦の話を聞いてもびんとこなかつたことを憶えている。

(講談社『古代の終焉 清張通史6』より)

清張が奈良時代を描いた唯一の小説「眩人」は、昭和五二年から五五年まで『中央公論』に掲載された。複数の史料にその名が散見する、僧玄昉が主人公である。

その経歴を、勅撰史書「続日本紀」は、(入唐して学問に励み、帰国に際して仏教の經典およびその注釈書五千

余巻と各種の仏像をもたらし)、「日本の朝廷でも」(尊んで僧正に任じ)られたが、その後(天皇のはでな寵愛が目立つようになり、次第に僧侶としての行ないに背く行為が多くなり)、「左遷された場所で死んだ」と記す

<sup>(※1)</sup>一方で「今昔物語集」などは皇后との醜聞を仄めかし、この路線を踏襲した史料も複数ある。

最期も、謎に包まれている。「続日本紀」は、廣嗣の靈に殺されたとの風説を記すに留めるが、清張は、作中、登場人物にもつと現実的な言葉で語らせる。すなわち、「玄昉・真備の罪を弾劾して謀反し、敗戦により(斬られ)た」(廣嗣の残党が襲撃して殺害)した、あるいは、「(宫廷)の秘密をあまりに知りすぎた」として、時の権力者が「放った刺客」に〈暗殺〉されたのではないかと疑う。

清張は、「氣をつけなければいけないのは、歴史は時の権力者の手で作られるということ」<sup>(※2)</sup>と述べている。史料の行間に作為臭を嗅ぎ取り、独自の推理で復元することで、玄昉という名の人間が、天平の世を躍動する。幾多の歴史上の人物のなか、あえて玄昉に眼をとめた清張。その謎

今に残る風景の向こうに、清張が見た玄昉の面影を求めて、ゆかりの地を訪ねる。次号へ続く。

<sup>(※1)</sup>「続日本紀上」金現代語訳・宇治谷孟著  
<sup>(※2)</sup>壯大に描く日本民族の歩み「清張通史」三

(加地 尚子)

## 出前講演に行ってきました!

両講演とも、講師は柳原専門学芸員が務めました。

### 市立八幡西図書館 特別教養講座

■開催日 3月1日(土)

■参加者 一般の方々約40名

#### 「松本清張を育んだ読書

～大切なことはすべて故郷・北九州で学んだ～」



講演終了後にも、質問やご意見など、講師席まで熱い思いを届けてくださいました。

### 北九州市観光案内 ボランティア研修

■開催日 4月30日(水)

■参加者 観光案内ボランティアの方々約40名

#### 「松本清張と 北九州市との関わり」



市立生涯学習総合センターでの講演後、記念館で、企画展「北九州市と松本清張」を解説付きで観覧していただきました。

## 友の会 活動報告

### ●朗読劇『球形の荒野』

■4月19日(土) 参加者 135名 記念館 屋外特設スタンド

劇団前進座による朗読劇は、今年で11回目を迎えました。今回の演目は、「球形の荒野」。長編推理小説の名作が、迫力と感動に溢れる朗読劇の作品と



して見事に描き出されました。屋外特設スタンドでしか味わえない臨場感も醍醐味の一つとなっています。観客を惹きつけて止まない素晴らしい脚本と熱演に、今回も参加者から多くの称賛の声をいただきました。

### ●清張サロン

清張サロンは、清張作品や清張に関する話題をテーマとして、講師を招いてのお話や参加者との意見交換・交流等を目的として開催しています。第7回は、記念館との共催による「特別講演会」として、友の会会員のほか一般市民の参加も募りました。講師の分かりやすく掘り下げた解説により、清張や清張作品への理解が深まる充実したサロンになりました。



■第6回 3月20日(木) 参加者 26名 記念館 地階ホール

●テーマ：火野葦平と松本清張

●講師：小林慎也氏(元梅光学院大学教授・友の会会長)

■第7回 6月14日(土) 参加者 70名 記念館 企画展示室

【特別講演会】●テーマ：松本清張「表象詩人」と田中角栄「日本列島改造論」

●講師：松本常彦氏(九州大学大学院教授)

### ●春の文学散歩『ゼロの焦点』の舞台等を訪ねて

■6月1日(日)~3日(火) 参加者 25名

1日目 福井駅→永平寺→東尋坊

2日目 鶴来白山比咩神社→千里浜なぎさドライブウェイ→妙成寺→巖門・清張歌碑→ヤセの断崖・義経の舟隠し

3日目 金沢城公園→石川四高記念文化交流館→兼六園

今回は、「ゼロの焦点」をテーマに、小説や映画の舞台となった金沢、能登、金剛を訪ねる2泊3日の旅でした。3日



間とも天気に恵まれて気温が連日30度を超える中、東尋坊や巖門から望む日本海は碧く、冬とは違った絶景を味わいました。

また、旅先での親睦会は会話も弾み、会員同士の交流を一層深めました。

参加された皆様から「楽しい毎日だった」「勉強になった」「次回も参加したい」などの感想をいただきました。

### ●友の会会員 更新のお知らせと新規会員募集●

松本清張記念館友の会は8月1日~翌年7月31日を1年度として、文学散歩や清張サロン、講演会、生誕祭、「友の会だより」の発行、記念館に関する情報提供など多彩な事業を展開しています。

年会費は3,000円です。皆様のご入会を心よりお待ちしています。

友の会入会のお申し込みは、松本清張記念館友の会事務局まで

TEL. 093-582-2761

平成26年度  
中学生・高校生

## 読書感想文 コンクール

清張作品の読書感想文を、中学生・高校生を対象に募集します。

若年層に、より多くの作品に親しんで欲しい、表現力を学び豊かな心を身に付けてもらいたいという願いから、このコンクールは始まりました。そして、これからを担う若者たちに、探求の人・松本清張の精神を伝えていくことができれば幸いです。



■応募対象 全国の中学生・高校生

■課題図書 中学生・高校生ともに下記から1作品

「軍師の境遇」（『軍師の境遇』角川文庫、『軍師の境遇』河出文庫）  
●黒田官兵衛の生涯を描いた長編時代小説。

「顔」（『張込み』新潮文庫、『声』光文社文庫）

●短編推理小説。

「眼の壁」（『眼の壁』新潮文庫）

●長編推理小説。

### ■応募方法

- 中学生、高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。
- 手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし、全体の字数が分かるように応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。
- 原稿は自作で未発表のものに限ります。なお、応募原稿はお返しいたしませんので、必要な人はコピーをおとりください。

■応募締切 平成26年10月31日(金) ※当日消印有効

■応募先 松本清張記念館 感想文コンクール係

※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。

■選考者 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

### ■発表

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、12月下旬頃、本人と学校に通知し表彰式を行います。なお、入選の結果は、当館発行の「館報」で発表します。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■賞品 (受賞人数等、変更の場合もあります。)

#### ○最優秀賞(1人)

《モンブラン》万年筆「マイスター・シュテュックNo.149」

#### ○優秀賞 (中学の部…1人)(高校の部…1人) 文具など(未定)

○佳作 (中学の部…3人)(高校の部…3人) 図書カード その他  
※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各一回ずつの受賞と限らせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。過去の受賞者からの応募作品が賞に該当する場合はく特別賞>として「館報」掲載を予定しています。

●協力 モンブランジャパン



編集・発行

## 松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区城内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

<http://www.kid.ne.jp/seicho>

制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般／500円(400円) 中・高生／300円(240円)  
小学生／200円(160円) ( )は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分  
小倉駅からはバスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)  
車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分

松本清張記念館



## 松本清張研究奨励事業 入選企画決定

「松本清張研究奨励事業」は16回目を迎ましたが、多様なアプローチの応募企画が寄せられました。選考委員会による厳正な審査の結果、次のとおり入選者が決まりました。

第一線で活躍される入選者も増え、成果の蓄積が清張研究をさらに発展させています。今回の入選企画も、松本清張の活動の幅広さを示し、成果が期待されます。

企画名 松本清張の見た関東州 —平石氏人資料を手がかりとして—

入選者 平石 淑子(日本女子大学教授)

奨励金 500,000円

企画名 松本清張とラオス —ベトナム戦争の記述をめぐる研究—

入選者 尾崎 名津子(日本大学・早稲田大学 非常勤講師)

奨励金 400,000円

## 第17回 松本清張研究奨励事業募集

### 募集要項

- 対象 ① 松本清張の作品や人物を研究する活動  
② 松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動  
(調査、研究等)  
※上記①②の活動で、これから行おうとするもの。ジャンル、年齢・性別・国籍は問いません。ただし、未発表に限ります。個人又は団体も可。  
内容 入選者(団体)に130万円を上限とする研究奨励金を支給します。  
応募方法 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容が具体的に分かる企画書、予算書、参考資料(様式は自由、ただし日本語)を、平成27年3月31日までに応募してください。  
※詳しくは記念館までお問い合わせください。

●編集後記・ 前回企画展「北九州市と松本清張」には7,000人を超える方々にご来場いただき、感謝申し上げます。新企画展では、結婚後欧州に渡り、彼の地で第一次世界大戦下に生きた黒髪の伯爵夫人「ミッコ」に迫ります。清張さんが彼女を描いていたことをご存知ない方も多いのではないでしょうか。どうぞ期待ください。

開館16周年記念講演会は、昨年の松本清張賞を受賞し、「食堂のお姉さま」として話題をさらった作家・山口恵以子さんをお招きします。受賞作「月下上海」は、第二次世界大戦中の上海を舞台に、折り重なる不幸にもめげず強靭に生きる財閥令嬢がヒロインです。女性パワー全開の夏。記念館には今、涼やかな風がそよいでいます。

(N.K.)

